研 究 結 果 報 告 書

所属　Thammasat University
役職　Associate Professor
氏名　ウィリヤェナワット　ピヤヌット

【研究テーマ】

日本の現代女性作家の作品における女性作家の視点と現代女性の表象をめぐって

【研究結果】

本研究では、村田沙耶香『丸の内魔法少女ミラクリーナ』、松田青子『女が死ぬ』、小川洋子『妊娠カレンダー』、湊かなえ『告白』という現代女性作家の作品を通じて、女性の「語り」及び、表象について考察した。

村田沙耶香『丸の内魔法少女ミラクリーナ』では、モラハラに苦しむ女性が主人公となり、女性同士の団結と助け合いの重要性が強調される。魔法少女の変身は、困難を克服する力と希望の象徴であると同時に、家父長制社会での女性同士の支援の手段としても機能している。

次に、松田青子の『女が死ぬ』は、「女性らしさ」がいかに社会によって構築され、長年にわたり継承されてきた様子を多様な女性像を通して描写する。作品は「女性らしさ」と「女性の価値」の再考を促し、「ミソジニー」の家父長制社会における女性の困難を浮き彫りにすることで、女性たちにエンパワーメントを与えている。

小川洋子の『妊娠カレンダー』は、日記形式で記され、「妊娠」という一般には「喜ばしい」ものとされる現象を新たな視点から描き直す。本作品では、妊娠が姉妹関係に及ぼす不安定な影響と複雑な妊娠の過程が描写され、「病院」と「台所」が対照的に描かれる。つまり、病院が「母になる空間」である一方、台所は胎児に害を及ぼす可能性のある場として描かれる。

湊かなえの『告白』は一見ミステリー形式をとるが、「シングルマザー」や母親不在の家庭問題を扱っており、シングルマザーの苦悩と支援の必要性が浮上する。母親不在の影響は家族内の関係と子供の成長に複雑な影響を及ぼし、現代日本の女性の立場を示している。

以上の作品は、家父長制や社会的偏見に縛られた「女性らしさ」という概念を再考し、女性の生きる意義や困難について鋭く問いかけていることが明らかになった。また、女性の多様な生き方と連帯の意義を描き、女性の生き方や価値観の再構築を促しているといえる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1.Piyanuch Wiriyaenawat.“Female Imagery in “*The Woman Dies*” by Matsuda Aoko” (The 4th IAFOR International Conference on Arts & Humanities in Hawaii (IICAH2024))The Hawai'i Convention Center,Hawaii,United States,Wednesday 3 – Sunday 7January 2024. (In English)

2.Piyanuch Wiriyaenawat.“Subverting Femininity and Maternal Spaces: An Analysis of Gestation and Domesticity in Yōko Ogawa's *Pregnancy Diary*” (The 5th IAFOR International Conference on Arts & Humanities in Hawaii (IICAH2025))The Hawai'i Convention Center,Hawaii,United States,Friday 3 – Tuesday 7 January 2025. (In English) (Notification of Acceptanceを拝受した。一月上旬に発表する予定。)

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1.Piyanuch Wiriyaenawat.“The Presentation of Female Imagery in *The Woman Dies*by Matsuda Aoko” (2024).The Journal of Liberal Arts, Thammasat University.24(2).p.222-248.

2.Piyanuch Wiriyaenawat.“村田紗耶香「丸の内魔法少女ミラクリナー」における魔法少女の機能をめぐって」（投稿する予定）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）